

# 自治協ニュース

第0103号  
発行者  
八本松住民  
自治協議会  
R01.07.20

## 平成30年豪雨災害を後世に伝える

### 災害1年 経過して

### 求められる小単位の避難計画

### 八本松 防災委員会 瀬野川の氾濫水位記録版を設置 80cmを越え、八本松西6丁目を浸水



このほど、八本松住民自治協議会防災委員会（委員長 牧野美三夫）は、昨年の西日本豪雨災害の記憶を後世に伝えるため、瀬野川の氾濫で最も大きな被害を受けた八本松西6丁目の川沿いの擁壁（八本松から志和に通じる県道46号線のアンダーパス）に当時の氾濫水位を銘記した記録版を設置した。

瀬野川と並行に走る旧国道 赤印の位置に記録版

この記録は、記録版が設置された付近に住む田島芳樹さんが災害当時アンダーパスに記した水位を基にしたもので記録版には「河川の最高氾濫水位80cm、時間雨量53㎜等が記載（写真）されている。

田島さんは当時を振り返り「瀬野川から濁流がアンダーパスを通り自宅前の水田に流入あっといいう間に自宅周辺を浸水させ、午後6時頃に最高水位となりアンダーパスの壁面に印を付けた」と語った。



当時の状況を語る田島さん 右に記録版

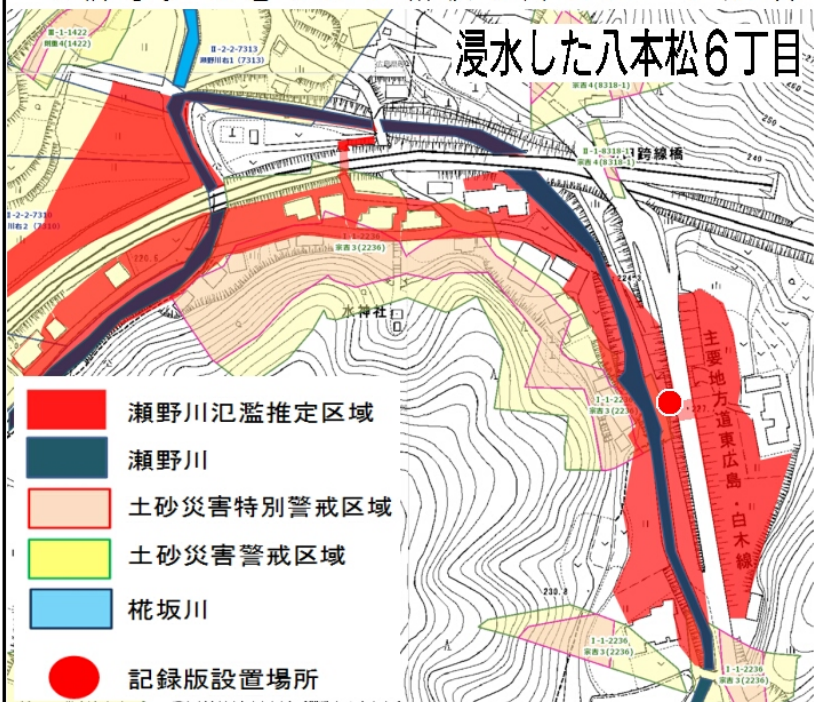
また、田島さんより下流域に住まわれる高橋克枝さんも「午後6時過ぎにトイレの異常音で異変に気づき、家の表と裏両方向から瀬野川の濁流が流れ込み50cm位の水位となった」と証言。

いづれの時間帯も市から避難準備情報（午後6時17分）が出されたところで、そのころにはこの地域一帯が浸水し、他の場所に避難すること

ができなかったことが判明した。そのため、当地域では昨年8月、河川氾濫場所に300個の土のうを積むとともに、現在200個の土嚢を用意。今後更に増やす予定。住民の方に過去の災害を聴くと「ここまで水位が上がった経験は記憶にない」とのこと。

また、この流域は川が蛇行しているうえ、2カ所に川をせき止める井手があるほか栲坂川（志和方向）がT字型に合流する等流れを阻害する要因が多いため、増水しやすい構造にある。

### 浸水した八本松6丁目



河川氾濫水位記録版	2019年3月
2018.7.6	西日本豪雨災害発生
1) 発生場所	東広島市八本松西6丁目瀬野川水系
2) 状況	河川氾濫水位 80センチメートル
	1時間当たり降雨量 53ミリ
	土石砂の大きさ 12cm～15cm
設置管理者	八本松住民自治協議会 防災委員会

記己録版

# 認知症サポーター養成講習会で新たな知見

## 八本松みなみ福祉会 助け合い・支え合いの活動を推進

### 福祉啓発と意見交換会 「ご近所ホット推進員」「ご近所ホットお助け隊員」

八本松みなみ地区福祉会（会長 藤原和雄）は、6月30日、東広島市と東広島市社会福祉協議会の福祉担当者（会長 藤原和雄）を招き、「認知症サポーター養成講習会」を開催した。この地域は校区内でも高齢化率（32%）が高く、今後認知症問題が重要な課題となることが想定されている。そのため、「助け合い・支え合いの活動」においてもこの課題と向き合う必要性から認知症をテーマに研修会が開催されたもの。



意見交換する福祉担当者（左から今井、楠戸、中村、岡村氏）と参加者の皆さん

この日の参加者は、他地域に先駆け事業化した高齢者の日常生活を支える「ご

近所ホット推進員」と「ご近所ホットお助け隊員」の皆さん34名。

はじめに、福祉担当者から最近の認知症の知見を学習。さらに、担当者の分かりやすい寸劇で、認知症になられた方かどうかの判断を学んだ。

特に、認知症になられた方には特徴的な症状が見られ、それを否定するのではなくフォローし、その方の尊厳を傷つけないよう接することが大切。また、認知症の方やそのご家族との対応で困ったこと等があれば、東広島市包括支援センター



迫真の認知症寸劇

等の相談窓口にご相談するよう福祉担当者から要請を受けた。

養成講座終了後、4月1日に発足した「ご近所ホットお助け隊」の活動実績（12件）と支援活動での気づきや問題点が話し合われた。

なかでも、実際に活動した隊員から、「現在、被支援者からの要望は少なく、当初は支援者側からの声掛けで事例を積

み重ね、支援される人が声を出しやすくすることが重要。

また、支援する人が気持ちよく活動できる地域の雰囲気づくりが大切」との意見が出され参加者の共感をよんだ。

本福祉会役員で住民自治協議会福祉委員長 信国武登氏は「この組織は発足したばかりで、いろいろ改善すべきことがあると思う。今後、皆さんと意見交換し、当福祉会のあるべき姿『お互いが困ったとき気軽に助け合えることができる安心して暮らせる地域』を目指そう」として締めくくった。

## 宗吉土のう作戦 備えあれば 憂いなし

八本松西 自主防災会

八本松西（会本北）自主防災会（会長 谷本智）は6月16日早朝から市民グラウンドで災害に備え土嚢作りを行った。

この土嚢作りは、昨年の豪雨による河



雨中での土嚢づくり

川氾濫で床下浸水の被害を受けた八本松西6丁目の住民の方の要望によるもの。地域住民の方と防災関係者10名が小雨の中、100袋の土嚢を作成し配布した。配布を受けた住民の方は、「昨年は門扉から濁流が流入しどうしようもなかったが、これでひとまづ安心です」と喜んでおられた。



配布された土嚢

八本松西防災会は今年度既に400個作成配布しており更に昨年の災害現場近くに土嚢用の土を準備し今後の豪雨に備えている。また、自治協防災委員会も昨年の実態を踏まえ、河川氾濫による道路の浸水に備え通行止めの際に備え必要な場所に配置済。